

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	3b	乳房再建術を前提にした乳房切除術において乳頭乳輪の温存は勧められるか？
P	皮膚や胸筋への浸潤、炎症性乳癌などの症例を除く乳癌患者	
I	nipple-sparing mastectomy	
C	乳房切除術	
臨床的文脈		治療:乳房切除術における術式選択
O1	全生存率の低下	
非直接性のまとめ	比較なく、単一群での症例集積の論文が3編あり、非直接性はやや劣る。	
バイアスリスクのまとめ	論文ごとに施設基準でNSMの適応を決定している。早期症を多く含む場合、進行症例に限局した場合とばらつきを認める。	
非一貫性その他のまとめ	論文ごとに全生存率にばらつきはそれほど認めず。	
コメント	乳切の場合と生存率にそれほど差はなく、死亡への悪影響は少ないと思われる。(害)	
O2	整容性	
非直接性のまとめ	比較なく、単一群での症例集積の論文が多く、非直接性はやや劣る。	
バイアスリスクのまとめ	論文ごとに対側の豊胸、縮小術をしている論文や、照射を行っている症例等を含む場合がある。	
非一貫性その他のまとめ	乳房切除と比較している論文は少ないが、乳頭壊死等の合併症は認められるものの、即時再建しているので、整容性は優れている。(益)	
コメント	乳房切除と比較している論文は少ないが、乳頭乳輪を温存し、即時再建しているため、対側の修正術、再建術式にばらつきは認められるものの、整容性に関しては優れていると考える。(益)	
O3	患者満足度	
非直接性のまとめ	比較なく、単一群での症例集積の論文が多く、非直接性はやや劣る。	
バイアスリスクのまとめ	患者の主観によるものであり、バイアスは大きい。	
非一貫性その他のまとめ	乳房切除と比較している論文は少ないが、相対的に患者満足度は高かった。	
コメント	乳房切除と比較している論文は少ないが、即時再建施行しており、相対的に患者満足度は高い。(益)	
O4	局所再発率	
非直接性のまとめ	比較なく、単一群での症例集積の論文が3編あり、非直接性はやや劣る。	
バイアスリスクのまとめ	論文ごとに施設基準でNSMの適応を決定している。	
非一貫性その他のまとめ	論文ごとにばらつきはそれほど認めず。	
コメント	乳切の場合と局所再発率にそれほど差はなく、局所再発率は全体に低いといえる。進行症例に限局した場合でも、局所再発率に有意差は認めず、この手技による害は少ないと考える。(害)	
O5	乳頭乳輪壊死	
非直接性のまとめ	比較なく、単一群で症例集積のみであり大きいとみなす。	
バイアスリスクのまとめ	論文ごとに施設基準でNSMの適応を決定している。MRIで乳頭乳輪への進展を確認している論文、距離は関係ない論文とばらつきを認める。	
非一貫性その他のまとめ	論文ごとにばらつきはそれほど認めず。	
コメント	乳頭乳輪壊死は全体で2.8%と多くはないが、乳頭を切除をする術式よりわずかながら乳頭壊死の可能性はある。(害)	
O6	遠隔転移	
非直接性のまとめ	比較なく、単一群での症例集積の論文が4編あり、非直接性はやや劣る。	
バイアスリスクのまとめ	論文ごとに早期症例を多く含む場合、進行症例に限局した場合とばらつきを認める。	
非一貫性その他のまとめ	論文ごとにばらつきはそれほど認めず。	
コメント	乳切の場合と遠隔転移にそれほど差はなく、遠隔転移に有意差は認めず、この手技による害は少ないと考える。(害)	
O7	皮弁壊死	
非直接性のまとめ	比較なく、単一群での症例集積の論文もあり、非直接性はやや劣る。	
バイアスリスクのまとめ	論文ごとに施設基準でNSMの適応を決定している。	
非一貫性その他のまとめ	0.2%~3.6%と少ない。	
コメント	皮弁壊死は少なくいが、論文数が少なく、評価は難しい。(害)	
O8	乳頭部再発	
非直接性のまとめ	比較なく、単一群で症例集積のみであり大きいとみなす。	
バイアスリスクのまとめ	論文ごとに施設基準でNSMの適応を決定している。MRIで乳頭乳輪への進展を確認、術中迅速でNAC断端を確認、術中照射している論文などがある。	
非一貫性その他のまとめ	論文ごとにばらつきはそれほど認めず。(0~2.7%)	
コメント	乳頭部再発率は1.9%と非常に少ないが、厳密には乳頭乳輪の乳腺を残す術式であり、遺残した乳腺からの再発の可能性はわずかながらには残る。(害)	